

第 1 回 学校運営協議会記録

1. 学校長挨拶

- ・今年度から「学校協議会」から「学校運営協議会」へ。①学校経営計画に「承認」を頂き②教員人事に意見具申が可能となった 2 点の変更点。②について、個々の教員人事は対象外。
- ・定員充足。「本校が丁寧に生徒をみる」、地元の中学校からの評価に後押しされた。
- ・定員を満たしたことに安座せず、新たな気持ちで学校運営をしたい。

2. 委員委嘱

- A：元大学職員、元府立高校校長、学識経験者。
- B：平野区在住。元府立高校校長・教育センターにも勤務。
- C：障がい者福祉サービスの施設長。
- D：松原市内小学校校長。
- E：松原市内中学校校長。
- F：PTA 会長。

3. 委員自己紹介

4. 会長選出 A 氏

5. 平成 30 年度 学校経営計画

- ・「めざす学校像」の項目順を変えた。「自己を確立し…（略）」の項目を 1 番目に。まず、学校に登校できることを優先目標とすべき。昨年度、欠席一万件以上。「来ない」は転退学へ負の循環の始まり。「当たり前に登校できるようになる」ことをめざす。中間目標も順を変えた。授業・行事・部活動で生徒の心を惹きつけ、登校刺激としたい。
- ・「2（1）新たな…わかる授業…（略）」の項目。「アクティブラーニング」や「ジャパン e ポートフォリオ」等新たな情勢にも対応するため研究が必要。将来、48%の仕事は AI に取って代わる。「自分で課題を見つけ、解決へ向けて取り組む力」の育みが重要。ポートフォリオは大学入試だけでなく、企業の採用に使われる可能性もあると見ている。
- ・本当に大切な事をわかりやすいようにするため、経営計画の記載量を減らした。一方で「校長マネジメント予算」の関係で記載が求められており、ある程度の量になってしまう。

協議員：先生方の大変な努力の結果が入試に現れた。地域住民としてありがたい。生指だけでなく、新たな取り組み（AL、e ポートフォリオ等）に係る研修等大変だが「働き方改革」の項目について、長時間勤務の縮減へ向けての取り組み状況は？

校長：超勤時間は、2 年前と 1 年前を比べると減っている。ただし、府下ワースト 40 入り。金曜の定時退庁を呼びかけ。それがどれだけ生きているはわからないのが実情。

中学校を訪問して「平野は生徒を追いかけてくれる」、欠席生徒への連絡、提出物の促し、時間外の保護者連絡等。「平野が無くなると困る」という複数の中学校より評価をいただいた。それらを維持しながら超勤時間を減らさねばならない。府としての新しい試みは、夏休みに 3 日連続休業（土日含む）を設定する。本校では 11（土）～13（月）予定。ただ、クラブ等はやらざるを得ない。

協議員：仕事が集中しないよう、先生方も健康に気をつけて欲しい。

6. 今年度の目標（分掌等）

広報、1年、2年、3年、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の順で説明。

7. 協議及びまとめ

協議員：「ひきこもり」について、小学校、中学校の実情は？

協議員：社会的には、引きこもりの「長期化」「高年齢化」が報道されている。小学校では、家庭（親）の養育姿勢が大きく影響している。原因は「ネグレクト系」。子どもに登校刺激を与えない、下の小さい子の世話をさせる等。歯科検診の治療確認がないケース等、親の子に対する感心の低さが見える。「友人トラブル」が原因の不登校は、改善が見込める傾向。この子たちは、これらが原因で、学力が振るわない事が多い。小学校では、担任以外でも頻繁に家庭訪問を行う。

協議員：中学校では、「人間関係のトラブル」が増える。解決しようとするが、多大なエネルギー消費。改善した実例もある。そのケースでは、ただ学校に「来る」を目標にスタート。本人に出来ることを繰り返し、少しずつステップアップして、現在登校できるようになってきている。

協議員：働き方改革について。松原市では夏季休業中に「日番を置かない休業日を4日間」を試行。一斉退庁日（19：00）も導入。帰れない先生もいるが、全体的に退勤は早くなってきた。（退勤できそうな日に、退庁日を設定している実情もあるが。）

協議員：先の大阪北部地震・大雨の件。生徒、教員の様子は？

校長：6月18日7：58地震発生。9：10時点で95%の生徒の安否を確認。バス等利用の生徒は幸い、車内に閉じ込められるケースは無かった。非常時の安否確認手段として、電話回線は当てにできないと実感。生徒同士のSNSによる安否確認が多かった。始業を遅らせ40分6限授業実施。下校時は、90%以上は自転車通学であることと、関係鉄道もほぼ復旧していたことで、大きな影響はなかった。北部在住の職員には、6限後すぐに帰宅を指示したものの、一部、帰宅困難が出た。非常2号配備により管理職は学校待機の対応。

協議員：1年生「スケジュール手帳の導入」、2年生「できる限り生徒立案の行事企画」3年生「自己実現、安易な進路選択しない」等の取組みについて生徒の反応は？

1年主任：スケジュール帳、最初は回収率が高かったが、ロッカーや家に放置する生徒が増えてきた。自分の問題として捉えて活用できていない。一方、先生からのコメントを楽しみにしながら上手に「自分のもの」として活用している生徒もいる。これらの工夫している手帳を紹介しながら、記入の意欲を高め、自己管理能力を育成したい。

2年主任：球技大会実行委員について。何でもかんでも教員が準備して出来合いのものをするのではなく、「何で」それをするのか、あえて面倒なことを取り組ませる。また、運営面と競技面で「何のためのルールか」を考えさせる事で、世の中のルールについて考える機会としたい。

3年主任：進路を安易に考えていた生徒が現実を目の当たりにして、就職・進学を安直に方向転換することがある。親が「学費が用意できない」ことを子どもに言えてなくて、直前で進学を断念する。自分がイメージしている就職先が簡単に手に入らないことに気づき進学に転向する。安易な目標設定と現実のギャップで揺れる生徒が多く、明確に自己像を描けていない。放課後指導、就職講座、進学講座、休み時間の懇談等を行っていききたい。